

映画のロケ地としての観光施策の推進！

観光・都市プロモーション

質疑のポイント

- ☑ フィルムコミッション「神戸フィルムオフィス」が設立20周年を迎えた。
- ☑ 節目の年に神戸出身の黒沢監督の「スパイの妻」が世界3大映画祭の一つ、ベネチア国際映画祭のコンペティション部門で銀獅子賞に輝いた。
- ☑ この20年の取組を評価するとともに、観光資源としての展望はどうか。

映像関連産業への幅広いネットワークを活用した誘致活動と、他都市では撮影が困難であった施設等での撮影が高く評価され、令和元年度末までに3,044件の映画、ドラマ、テレビ番組、CM等の撮影が実現をしている。

神戸フィルムオフィスの設立により、映画のまち神戸としてのPRが図れるとともに、神戸の観光客誘客、神戸経済の活性化に寄与してきた。今後もロケ地の観光資源として活用について取り組んでいきたい、とのこと。



▶ 北野異人館でのロケ風景

ICTを活用した医療と介護のデータ連携を！

医療・介護

質疑のポイント

- ☑ 神戸市北区において健康局と神戸市のスタートアップ企業が、ICTを活用した医療介護情報を共有するための実証事業を行っている。
- ☑ 地域包括ケアシステムの推進における強力なツールと考える。
- ☑ 今回の実証事業の評価指標の結果をもとに、全市展開はどうか。

病院とケアマネジャー等の情報共有を円滑に行うために作成した入退院連携シートを電子化し、救急・災害時に活用するために、その利用を促すような形にした。また、市民の健康づくりを支援するシステム「MY CONDITION KOBE」への登録などを行った。結果、区内居宅介護支援事業所65か所の半数以上がこの電子化サービスを導入し、また「MY CONDITION KOBE」の登録者の増にもつながった。



▶ 株式会社 KURASERU を訪問

ICTを活用した医療介護情報の共有をさらに広げていくのは十分検討に値するものだと考える。

地域包括ケア推進のための方策を議論する「医療介護連携に関する専門部会」において全市展開に向けた関係者間の合意形成に努め、円滑な事業の運用手法なども考えていく、とのこと。

文化・スポーツ活動を促進！

文化・スポーツ

質疑のポイント

- ☑ 昨年、日本で初めて開催されたラグビーワールドカップ2019において海外のファンも多数訪れ、神戸市の4会場では11万人の入場者になった。
- ☑ 成功の要因はどこにあるのか。今後の国際大会誘致への展望は。
- ☑ 「第9回神戸国際フルーツコンクール」は市からの財源の投入の在り方をめぐり、存廃の議論があった。
- ☑ 来年開催予定の第10回は、前回の成果をどう活かしていくのか。

成功した重要な点は、警察や消防などの関係機関と連携により、安全で安心して試合を観戦して頂いたことではないか。延べ3,000人を超えるボランティアが活動できたこと、神戸観光局の仕掛けにより、街中でおもてなし事業が展開できたこともある。神戸をPRする絶好の機会になる大規模な国際スポーツ大会の誘致に、さまざまな要因を踏まえて取り組んでいきたい、とのこと。



▶ 御崎公園球技場での試合



フルーツコンクールの認知度が非常に低く、市民還元ができていない問題があったため、コンクールを核とした国際フルーツ音楽祭に広げ、140を超える様々な事業を行った。小学校をコンテストが訪問し交流をするなど新しい取り組みを行った結果、本選は満員になった。財界や市民団体からも、引き続き応援を頂いている。

第10回に向けて、講座やトークイベントなど、コンクールならではの楽しみ方、魅力を伝えるための企画に取り組みたい、とのこと。

令和元年度各会計決算について

- 令和元年度各会計決算及び関連議案、合計24件を要望10件を付して認定、承認しました。(要望事項の一例)
- ・コロナ禍の中、インフルエンザワクチンの確保に向けて、県と連携し製薬会社に安定的な供給のはたらきかけを行うこと。また、幅広く予防接種を進めるため、全世代に対する補助メニューを構築すること。
  - ・摩耶山の再整備については、六甲山と摩耶山でゾーニングを守りながら、現在定着している市民活動と観光の両立を図ること。
  - ・公園不足が指摘されている摩耶小学校区においては、早急に公園用地の確保に努めるとともに、防災空地の活用も視野に、建設局と都市局の連携を図ること。

